

大学出版企画委員会から⑧

大学生の『学びの道具箱』が出来るまで 大庭健・出版企画委員会委員長に聞く

★ようやく『学びの道具箱』も刊行されたようですが、反響はいかがですか？

思っていたより多くの方々から好意的な感想をいただきました。もちろん、好意的に受け止めて下さった方々の声が届いただけで、冷ややかな方々は黙っておられるのかも知れませんが、でもまあ、ホッとしています。

★「ニュース専修」でも、出版企画委員会の動きは断続的に記事にしていますが、『学びの道具箱』の、そもそものいきさつは、なんだったんでしょう？

そもそも…うーん、そう遡ると話は、前の望月学長のもとで出版企画委員会が発足した時にまで戻りますかねえ。

★え？ それって、10年以上も昔のことですよ

そうです。当時の学長は、専修大学の社会的プレゼンスを強化するためには、休眠状態だった出版局をも活性化しなければならないと考えて、この委員会を立ち上げたのですが、そのときの趣意書にも「いい教科書」をつくる、というのも明記されていたんです。

★どうして、それが新入生のための『道具箱』になったのですか？

うーん、いろいろありましてね。まず、当時は「教科書」出版というだけで、すごく風当たりが強かった。むりやり学生に買わせる本を作るのか、とか、大学とは別の独立した企業を儲けさせるために教員を動員するのか、とか、まあいろいろありました(笑)。で、はじめの数期間は、出すのなら専大の授業の実態にあわせて、複数の先生が進んで使ってくれる教科書にしよう、という線ですぐに話合いました。

★具体的には、どんな教科書を考えてのですか？

大きく言って二つありました。ひとつは、複数の先生が分担して多展開している授業で共通に使える教科書です。同じ科目を履修したのに、だれが担当者だったかによって教わった内容が全く違うというのは、やはりまずいでしょう？ 教える先生方の考え方や教え方は多様だとしても、これだけは学生に分かってもらおう、という共通の事項のミニマムを分かりやすくまとめた教科書はあったほうがいい。もうひとつは、いろいろな授業で共通に使えるような、いい解説つきの資料集です。その頃話題にのぼったアイデアには、けっこう面白いものもありました。

★どうして、そういう企画が実現しなかったのですか？

うーん、…やっぱり大学の先生って、一國一城の主という意識が強いでしょうねえ(笑)。共通教科書というと、すぐ「お仕着せ」とか「統制」という反発がくる。でも、この時期の委員会での議論は、無駄じゃなかった。と言いますのも、全学部から委員が出てきて、自分のいる学部では…みたいな話をしながら、授業と教材のかみ合い方について、かなり大事な議論ができましたから。

★そうした議論の結果、共通教科書の構想が『学びの道具箱』に変わっていった…。

そう言える面もあるかもしれませんが、共通教科書や資料集の構想が消えて、代わりに新入生向けのハンドブックが出てきたわけでもありません。むしろ、それらと並んで議論されているうちに、だんだん優先度が高まってきたというほうが正確だと思います。

★どうして、そちらの優先度が高くなったのでしょうか？ やはり、よく言われる「学力低下」の影響ですか？

「学力低下」というのは、あまりにもラフなくくり方ですから、むしろ、この10年間で新生のタイプが非常に多様化したと言ったほうがいい。でも、おっしゃるとおり、これはやはり大きいですね。もちろん教える側の考え方・教え方は違って当然ですよ、大学なんだから。でも、これだけ新生のタイプが多様化してしまったんだから、大学で学ぶための共通の道具だてというか、姿勢を習得してもらおう努力をしなくちゃいけない。

★なるほど。でも、そうしたお考えで、たくさんの先生方が分担して本をつくるというのも、大変だったのではありませんか？

簡単だった、と言うと気障すぎますよね(笑)。でも、幸いなことに各学部から意気を感じて一肌脱いで下さる方々が集まって下さったし、法人の側も非常に協力的でした。それに企画課の職員も献身的に協力してくれました。でも何よりも、専門がまったく違う執筆者同士が、お互いの原稿にかなりきつい突っ込みを入れて話し合えたというのは、結果はささやかですが、大きな一歩だったと思っています。

★では、最後に今後の活動計画についてお話しいただけますか？

それは私の一存では申し上げられませんが、それ以前に本年度、この委員会のメンバーが私を除いて全員交代してしまうのが、少し気になります。でも、どなたがおやりになっても、これまでの委員会での話し合いをふまえて構想を練って下されば、少しずつ何かができるだろうと思っています。親しくお話をしたこともない他学部の若い先生からも『道具箱』をほめていただきましたし、教務・学務に通じている法人役員からも、先生たちがここまでやってくれるのは大変結構なことだ、みたいなことを言われましたし…。

★お忙しいところ、ありがとうございました。「ニュース専修」の方も、読みがいのある大学ニュースにしていきたい、と思っていますので。

【ニュース専修5月号3面】